

本誌記者が体験「リスク検査」

前章の血液診断は実用化
目前だが、ここでは、巻で
受診可能な2つのリスク検
査をご案内する。いずれも
本誌記者が体験した上で、
医師のカウンセリングも受
診。はたして首尾は――。

リン酸化タウとともに脳
に蓄積されるアミロイドβ。
この厄介者の働きを抑える
3種のたんぱく質の数を
調べ、リスク測定を行なう
のが「MCIスクリーニン
グ検査」だ。実施している
「MCBI」社に聞くと、
「加齢とともに3種の量は
減少していきませんが、数値
が下がるといふことは毒性
のあるアミロイドβを脳内
から排除したり、結合して
毒性を弱める機能が低下し
それが脳内に溜まりやすく
なることを意味します。検
査は当初1年間、パイロッ
ト的に医師の方々にご協力
頂き、2015年4月から

本格的に実用化されまし
た」(事業本部の依谷好法・
業務執行役員)

現在は全国1400の医
療機関で検査が可能。5
7ccの血液を採取し、結果
は2〜3週間で判明。費用
は保険適用外で2万円ほど。
正常のAから高リスクのD
まで4段階で判定され、こ
れまで累計でAは53%、B
は27%、CとD合わせて20
%の割合だという。そこで
本誌の50代喫煙者と40代非
喫煙者の男性記者が検査し
たところ、結果はいずれも
A判定。受診した「メディ
カルプランチ表参道」の古
田一徳理事長によれば、
「結果は、年齢や生活習慣
で変化していきます。現在
55歳の私が3年前に初めて
受けた時は何とC判定でし
たが、その後、有酸素運動
に取り組むなどし、半年後
にはAになりました。MC
Iまでの期間であれば、改

善は可能なのです」

同時に受診できるのが
「APOE遺伝子検査」。遺
伝子の組み合わせにより先
天的な認知症の発症リスク
を調べるもので、こちらも
費用は2万円程度。再びM
CBIによれば、

「国内外の観察研究によつ
て明らかになった認知症の
リスク因子であるアポリポ
たんぱくE(ApoE)の
遺伝子型を調べます。APO
E2、APOE3、AP
OE4のうち、E4は発症
リスクが高いとされ、両親
から1つ受け継いだ「e2
/4」や「e3/4」型で
は認知症の発症リスクは約
3倍、2つ受け継いだ「e
4/4」では発症リスクが
約12倍といわれています」
ちなみに日本人では「e
3/4」は11.3%で「e4
/4」は1.3%。本誌50
代記者は日本人の72.1%
と最多の「e3/3」型で、
40代記者はリスク3倍とさ
れる「e3/4」であった。
前出の古田理事長は日頃
の留意点として、

「体内に重金属が溜まると、
活性酸素の濃度が上昇して
認知症リスクが高まります。
たばこを吸うとカドミウム
やヒ素が、缶飲料を頻繁に
口にするとアルミニウムが
蓄積します。水銀もマグロ
などに含まれていたり、銀
歯から溶け出すこともある。
これらは解毒しなければな

りません。ニンニクやニラ、
出する作用のあるαリポ酸
のサプリメントも処方しています」
健康なうちにこそ、リス
クと向き合うべきなのだ。